

(調査様式1)

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年8月29日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670200585号
法人名	オフィス藤田有限会社
事業所名	グループホーム燦々(さんさん)
所在地	薩摩川内市永利町970 (電話) (0996) 20-3515
自己評価作成日	平成23年5月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成23年6月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 認知症を疾患や症状として科学的にとらえ、それによるご本人の困り事や気持ちを察した上で、ケアを導いています。困り事が少なくなるとご本人は本来の年長者としての気遣いや優しさを表現してくれます。だからグループホームの雰囲気がとても穏やかになります。
2. ピアサポートという理念に基づき、「利用者と支援者」という関係だけではなく、お互いに支え合っている関係を大切にしています。
3. サービス業として接遇・マナーの技術向上を目指しています。職員全員が支援者としての視点から、利用者や家族の視点に転換できるよう努力しています。
4. 実習生や研修生が多く訪れるので、地域貢献や地域に根ざす生活を意識しています。またケアの意味づけを人に系統的に伝える機会が多いので、職員の知識も向上し、実践に活かしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営規定、重要事項は、文字が大きく丁寧に説明されていて読みやすく、理解しやすいものとなっている。運営基盤もしっかりしており職員は生き生き活動しており質の良いケアにつながっている。利用者も安心して日常生活できる環境が整っている。実習生や研修生の受け入れも多く、職員の自己研鑽につながっている。利用者は、個々の目標を掲げ、楽しみながら生活リハビリに取り組み、職員は、ケアの中で自分の得意分野を生かす取り組みも始めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	グループホームは竟の住まいであり、社会の中で役割や楽しみ、尊厳をもった生活という目標を掲げている。理念につながるよう朝礼でケアの意味づけをしてから実践している。	「専門的な介護の提供」「地域で暮らす支援」「偏見撲滅への取り組み」を掲げ、対等な関係での支援のもと、認知症ケアの基本姿勢を考えた介護を行っている。利用者が自宅での生活を目標に頑張れるよう働きかけ、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	近所の子供達が敷地内で遊んだり宅配のグループ購入で協力している。保育園やいきいきサロンとの交流、資源回収、文化祭や夏祭りにも参加している。	自治会に加入し、地域生き生きサロンとの交流を行い、また地区の文化祭、夏祭りなどに参加し、ちぎり絵など利用者の作品も展示している。近隣の子供や職員の子供もホームに出入りし、交流を楽しんでいる。大学、専修学校生の実習生を受け入れたり、地域の認知症啓発に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症介護指導者として近隣の会社でのサポーター養成や市の介護予防事業などに協力している。大学や専修学校、介護職員基礎研修、個別のボランティアなどを積極的に受け入れ、理論的に認知症介護を学べる機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は勤めのあるご家族に配慮した曜日設定をしている。いきいきサロンや文化祭でケアの実際を見て感じてもらい、認知症ケアに対する関心を高められるよう働きかけている。	メンバーが参加しやすい時間帯を設定し、なるべく多数の委員が出席できる事で地域の情報交換の場ともなるよう工夫された会議が定期的に開催されている。家族や地域代表から活発な意見が出て、サービスの改善や充実に向け、具体的に検討されている。議事録も各家族に広く公表し、会議内容をホーム運営に反映させている。	

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所のケアについて理解を深めてもらえるよう運営推進会議には必ず市職員に参加してもらっている。協議会支部長、県副会長として県や市に働きかけ協力・連携できるシステム作りに取り組んでいる。	市担当者とは困難事例の相談や情報の交換など連携ができています。グループホーム連絡協議会ネットを立ち上げ、ホームページを作成する予定である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する正しい知識を全職員に定着できるよう、定期的に研修を行っている。各事業所でその可能性がある事例検討も行い、具体的なケア場面に活かしている。玄関や出入り口は、施錠せずいつでも出入りできる。	身体拘束の禁止を運用規程に明記し、職員が課題を決め、定期的にレベルアップ研修に取り組んでいる。玄関や出入口は施錠せず、見守りを重視している。外出傾向の利用者は把握し、近隣住民、警察の協力を貰っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する正しい知識を全職員に定着できるよう、定期的に研修を行っている。特に言葉や態度による自尊心を傷つけるような虐待については、その都度話し合い意識を高めている。女性が多いため性的な言動にも注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業経験者や主任介護専門員と連携をとり、制度を活用するための支援体制を整えている。定期的な研修を行い全職員が権利擁護について理解を深められるように努力している。		

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず理念や重要事項についての説明を行っている。新たな規約については、運営推進会議での検討を経て文書による全家族への説明を行い承諾を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者との信頼関係を重視し、生活上での要望や希望を個別に意図的に受け持ち介護員が尋ねる。適切に要望を表現できない場合は、情報収集により気持ちを察するよう配慮している。家族とも信頼を築くよう努力し、面会時やアンケート等で率直な意見をもらえるよう配慮している。	請求書と共に利用者の状況報告を郵便等で行い、ホーム便りも発行している。「相談・苦情がサービスの質の向上を図る上での重要な情報である」との認識を職員間で共有し、家族や利用者が、相談や意見を出しやすい環境を作っている。無記名アンケートを行い、家族会などで問題提起の場をもち、率直な意見を得て効果をあげている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う事業所会議の議題は日々の職員の要望等を積み上げて決めている。会議や毎朝の業務調整、ケア会議では気兼ねなく発言できる雰囲気作り心がけている。備品購入希望や業務に関する提案書のシステムもある。	毎月の職員会議で、管理者・職員は、希望や気づきを十分話し合い、内容の充実した会議ができています。研修の機会も多く、職員の意識やサービスの質向上を図っている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力を相互に客観的に評価できるキャリアパス制度を平成22年度から取り入れた。目標管理を組織的に行っている。正社員転換制度により3名の非常勤職員が正社員となる。また上位資格取得への意識も高い。		

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>委員会主催の社内研修を制度化し研修の内容検討、資料作り、運営等を経験することで、職員が段階的に自信と実力をつけている。訪問介護事業所やデイなど他事業所とも交流研修を行っている。また事前に希望を聞き勤務配慮をして、積極的に社外研修を受けられるよう勧めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症実践者研修等の実習を受け入れており、他施設職員とも各々の課題について話し合う機会が多い。またグループホーム協議会における研修や役員会で職員や管理者同士の意見交換が定期的に行われている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には自宅や事業所で本人と面談を行い、認知症の症状による不安や不信などを察しながら信頼を得られる努力をしている。認知症の症状については全職員が理論的に理解をしており、受容・共感・自己決定に配慮したかわりができる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族は切迫した状態であることが多いので、労をねぎらい共感するように心がけている。またできるだけ多くの要望が聴けるよう具体的に質問している。事業所の理念や認知症に関する知識をできる限り伝え、家族と気持ちを合わせられる努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の認知症や他の疾患等による困りごとを把握し、環境の変化による不安を考慮して専門的な見地からケアの方向性を決定する。家族の罪悪感など心理的負担への配慮を言葉や態度で示している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬うという理念に基づき、本人が築いてきた人生をよく知り職員がその方を尊敬できるまで情報収集を重ねる。また生活機能を見極め事業所内における役割を果たせるかわりを見出し、諦めず継続して働きかけている。		

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係  職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	精神的に切迫している家族へのケアを統一できるよう毎日業務調整で情報の共有を行っている。家族もケアに参加できるよう面会時や外出時には、本人の現状をよく伝えている。本人の状態変化時や家族の心配が予測される時は電話報告している。事業所新聞での情報提供も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	法事や記念日には家族と相談し職員とともに自宅や親せきの家に外出をしている。また自宅近くのなじみの店で買い物も出掛けている。様々な理由で自宅に帰られない場合は帰ったような気分になってもらえる会話で楽しんでいる。	行きつけの店で買いものを楽しんだり、その際に自宅や近隣者宅に立ち寄り、会話を楽しんでいる。家族や知人への訪問、入院先への見舞い、墓参りやなじみの理美容院利用、法事等に参加するなど、なじみの関係継続に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の症状に合わせて座る位置を考慮し、利用者同士でコミュニケーションを取っている。車いすを押したり協力して家事を行ったりして、利用者同士支え合って生活している。また他の利用者のことを心配されていたら状態を説明し感謝の気持ちを伝えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後独居となった家族には積極的に声を掛けている。現在も事業所に立ち寄って近況報告をしてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別的な時間を設け介護者としての気持ちも含め「何をしてみたいか」「どう過ごしたいか」等を正直に伝え、一緒に希望や目標を見出している。言葉での表現が困難な場合は家族からの情報をもとに代弁して伝えるようにしている。	受容、共感、自己決定に配慮したかわりをもっている。表情や行動、会話の中から一人ひとりの思いを把握、職員の気づきをもとに話し合い、希望や目標を見出し、介護計画に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に若いころからの生活習慣や趣味、仕事等の情報を得ている。また日々のかかわりの中で得られた情報も記録や申し送りでも共有している。その生活習慣を継続できなくても、会話により再現し満足できるように工夫している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々生活のリズムが違うので、睡眠や食事時間等の日課にこだわらず、一日をどう過ごしたいかに着目している。また家事やレクリエーション等で様々なことに挑戦してもらい新たな才能の開花・発見に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヵ月に2～3回程度利用者別の話し合いケアの実施内容や評価を行っている。受持介護員が中心となり本人や家族が何を望んでいるのかという情報収集を行う。また医師や看護師の意見も取り入れている。リハビリやマッサージ関係の事業所とも情報共有を行っている。	ケア会議を月2～3回行いモニタリングもできている。残存能力を尊重した支援、利用者、職員と一緒に希望や目標を掲げ、利用者主体の暮らしを反映した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人申し送り用紙を利用し体調の変化や外出の段取り、ケア方法の変更などの情報共有をしている。また継続した観察やケアが必要な内容は、フローシートを活用しチェック方式で記録している。介護計画の実施表を各部屋に置き、実施のチェックを行い評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との信頼関係を重視している。人工透析を受けている利用者には病院との連絡帳を作成し情報伝達を行う。また歯科医の往診、マッサージ、リハビリ通院など利用者の要望や必要に応じたサービスを受けている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練は消防署と近隣の九州電力にも参加してもらっている。社会福祉協議会からボランティアの紹介があり継続して協力を得、その方の友人の訪問など輪が広がっている。タクシー会社との連携で利用者の1人外出も可能となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望に沿ったかかりつけ医による医療を継続している。終末期に近づく在宅医療を専門にしている医師を紹介しきめ細やかな医療が受けられる体制を取っている。医療機関への情報提供は全職員が適切に行うことができ信頼を得ている。	本人、家族が希望するかかりつけ医は、往診も2週間に1回あり、医療機関との継続した連携も密にできている。受診の結果は電話や面会時、月1回の通信にて報告している。	

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の申し送り時に体調の変化等を看護師に報告し、観察の方法や医療機関への相談等早期に対応している。内科、精神科、歯科の定期往診時には事前に情報提供をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	認知症高齢者にとって環境が変化することへの弊害について病院関係者に伝えるようにしている。日常生活動時のみでなく生活歴や認知症の症状に伴う不安の傾向等も介護要約に詳しく記入している。また入院中の病状説明にも積極的に参加し早期退院に向けた働きかけを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向がある際は早めに今後の予測される状況と多様な選択肢があることを伝える。事業所としてできる医療行為や在宅医療専門医師との連携方法などを口頭および文書で分かりやすく説明している。終末期が近づいている場合は主治医との十分話し合える機会を作っている。	入居時、看取りの指針について説明している。重度化に伴う意思の確認書を作成し、家族には事業所で対応できる最大のケアについて説明、同意書をもっている。早い段階から家族、主治医、関係者が話し合う機会を設け、方針を決定し共有している。職員は勉強会を重ね、悔いの残らない支援を目指している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを作成している。定期的な研修により転倒、脳卒中、呼吸・心停止などを想定した演習を全職員が受けている。ヒヤリハットが重なるなど危険性が高い場合はリスクマネジメント委員会を中心に対応策を事前に講じている。		

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策委員会により、台風などの自然災害への対応を事前に検討している。防火訓練を消防署と近隣の九州電力の協力を得て定期的に行っている。近隣住民や消防団にも協力を得る。	年1回消防署や近隣住民の参加のもと、非難訓練を実施している。毎月1回自主訓練を行っている。地震対策としては家具の固定などをし、卓上ガスコンロなども用意し、水・食料の備蓄もできている。スプリンクラー設備もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の症状に伴う不安や孤独感を推し測った言葉かけをしている。排泄介助時など自尊心やプライバシーを配慮することも介護計画として徹底している。実習生・ボランティアなど外部研修生には個人情報保護について十分説明している。	認知症について理解を深め、寄り添い、傾聴を大事に自己決定できる環境づくりに努めている。実習生など外部研修生が多いので個人情報保護についても徹底した指導が行われ、重要書類や薬等の管理もしっかりできている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の方は言葉での表現が困難となるため、本人の気持ちや希望を代弁し確認している。また状況判断が困難な場合は、本人が分かるように情報を提供し二者選択で自己決定できる会話を日常的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝、面会時間など決めていない。入浴もその日の気分によって柔軟に対応している。朝の会で本日の予定を伝え各々の希望を聞く。また病院受診や帰宅、買い物などの付き添いで個人的な希望に添えるよう人員の調整を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入浴の際に服装を自己選択できる声かけをしている。ビューティーヘルパーの支援を受けパーマやカットなど希望に添えるよう支援している。外出時はスカーフを巻くなどおしゃれに気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は体調や希望、生活機能に合わせて皮むき、配膳、味見などを行ってもらっている。外出時は弁当を持参して楽しんだり、外食、買い物も支援する。経口摂取が困難な方にも「食べたい」と思えるようなかかわりを継続して行っている。	利用者も参加しやすい開放的な台所で食事に関する一連の作業を通じ、利用者の力が発揮されている。利用者にあった個別の量、彩りのある盛り付けなど食欲を高め、食事への関心を引き起こす工夫を工夫している。利用者、職員が会話を楽しみながら食事している。弁当持参の外出や外食なども実施している。	

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に水分摂取が少ない方にはゼリーやこぼ茶、スイカなどで工夫している。定期的な体重測定によって本人と相談し食事量の増減を決めている。治療食が必要な方の場合、職員が病院の栄養指導を受け配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。嚥下体操も毎日行い、誤嚥の状況などを日々観察している。また経口摂取が困難な方は、専用器具で口腔ケアを行ったり歯科衛生士の訪問を受けたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し時間や本人の動きによって、できるだけ失敗しないよう夜間も含めて排泄の誘導をさりげなく行っている。トイレの場所が分かる方には本人にトイレの場所を聞きながら付き添ったり、ズボンの着脱などできることには手を出さないなど自立支援に努めている。	失敗があっても、さりげなく誘導、個々に合った排泄方法、能力を引き出すよう支援している。生活機能、排泄チェック表を見ながら見守り、寄り添いながら自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できる限り朝の散歩を行ったり水分摂取、トイレに座るなどの排便習慣を重要視している。食事は野菜を中心に行っている。運動が困難な方には、マッサージや緩下剤服用などを医師に相談しながら行っている。		

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	身体状況や気分、その方のスケジュールに合わせて入浴を検討している。介護者との入浴中の会話を楽しむとともに、麻痺や関節可動域の低下などに配慮した入浴支援の方法を常に検討している。	日常生活動作に合わせ、入浴支援を検討、「嫌がる事はしない。」方針で、お風呂嫌い利用者にも、ゆっくり支援している。足浴も常時取り入れ、効果をあげている。要介護5の方も、リクライニングの車いすを利用して、入浴やシャワー浴を楽しむよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムに合わせて就寝の環境を整える。科学的根拠をもとに朝の散歩で夜間の良眠を促している。共有スペースの和室にも布団を敷きカーテンで仕切り昼寝の環境も整えている。本人が安心する場所であればどこでも横になれる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳による管理を行っている。薬の変更時はその作用・副作用を調べ、効果を継続して観察・記録し、必要があれば早めに医師に報告できる整えている。調剤薬局の協力も得ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や洗濯は日常的に声かけを行い、利用者は各々自分の役割として認識している。片麻痺がある方もできることを楽しみながら体調に応じて新聞折やカレンダーの日めくりなど行っている。月に1回は外出レクリエーションを計画し、皆で楽器演奏の発表を予定している。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は希望に応じて付き添いができるように支援している。年間行事では花見や文化祭、イルミネーションツアー、道の駅での買い物なども計画している。外食では家族と一緒に楽しんだ。看護学生の実習に合わせて計画する場合も多い。	利用者の体調に配慮しながら近隣の散歩や道の駅での買い物、ドライブに出かけている。個別の外出支援、外食、弁当持参のピクニックなど閉じこもらない支援ができています。	

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を自己管理している方が半数で、買い物の希望時は家族か職員が付き添っている。自己管理していない方にも買い物の際にお金と財布を渡し楽しめるよう心掛けている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族との電話のやりとりは積極的に促している。家族が遠慮しないように配慮した声かけも行っている。書字が困難な方には代筆し投函している。大切な方への年賀状での挨拶も一緒に行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>壁には行事で外出した時の写真や家族に関連のある資料、習字の作品などを貼り、懐かしく見直したり会話のきっかけにしている。季節の花や飾り付けにも気を配り、実習生と一緒に作品を作ることもよくある。また台所が中央にあるので、食事作りの音や匂いにより生活を実感があるように配慮している。</p>	<p>玄関、リビングに続いて台所が開放的に設計され、利用者、来訪者にとって安心感のある共用空間になっている。ソファを置いたり、季節の花や利用者も容易に調理に参加できるなど、季節感や生活感をとり入れた工夫ができています。換気も十分にできていて清潔感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファを置きゆっくりと仲の良い利用者同士、職員との時間を楽しめる場がある。また家族との面会などはプライベートな場が必要な時は自室か少し離れた客間スペースでゆっくり過ごしてもらっている。</p>		

鹿児島県 グループホーム燦々

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの家具や時計などを持ってきたり、若い頃の写真や習字の作品、孫からの絵葉書などを自室に飾っている。また気兼ねなくテレビが見られるよう希望に応じて自室に設置している。自宅に咲いた花を届けてもらって飾ったりもしている。	使い慣れたタンス、家族の写真・習字や他の作品など、花や植物の鉢が置いてあったり、それぞれ利用者の個性を大事にした居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすで洗面や炊事ができるように設備を整えている。外へのスロープもあり日常的に日光浴や散歩、自分だけの洗濯物干し、歩行訓練など行える。自室やトイレの場所を自分で探せるように「便所」という表示や自分の顔写真等を貼っている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム燦々

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム燦々

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない